宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 23 日 10:08AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 50,000～67,500 円
(TOPIX) 3400～4100

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～54,000 ドル
(S&P500) 6300～7820

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～31,000
(ナスダック総合) 20,700～27,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～103.650

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

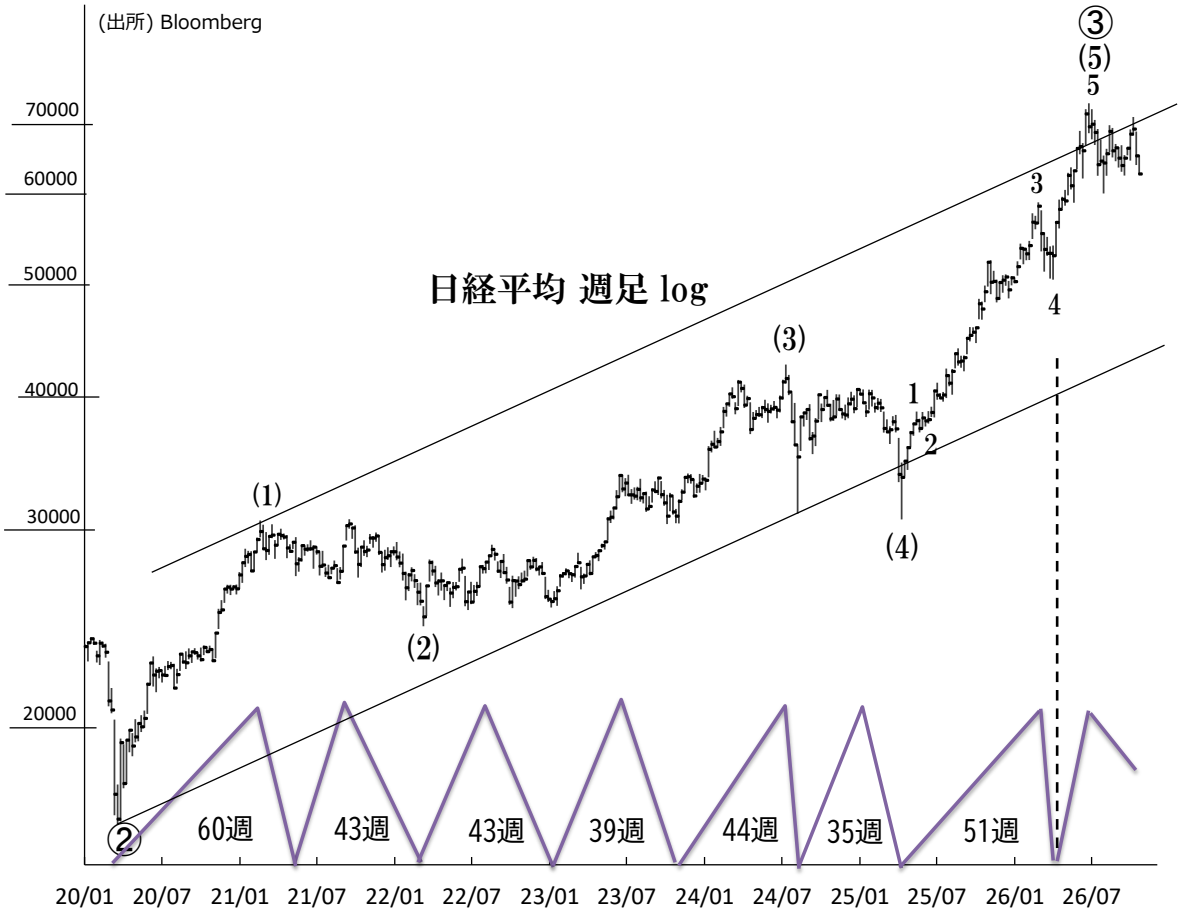
相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中とみています。

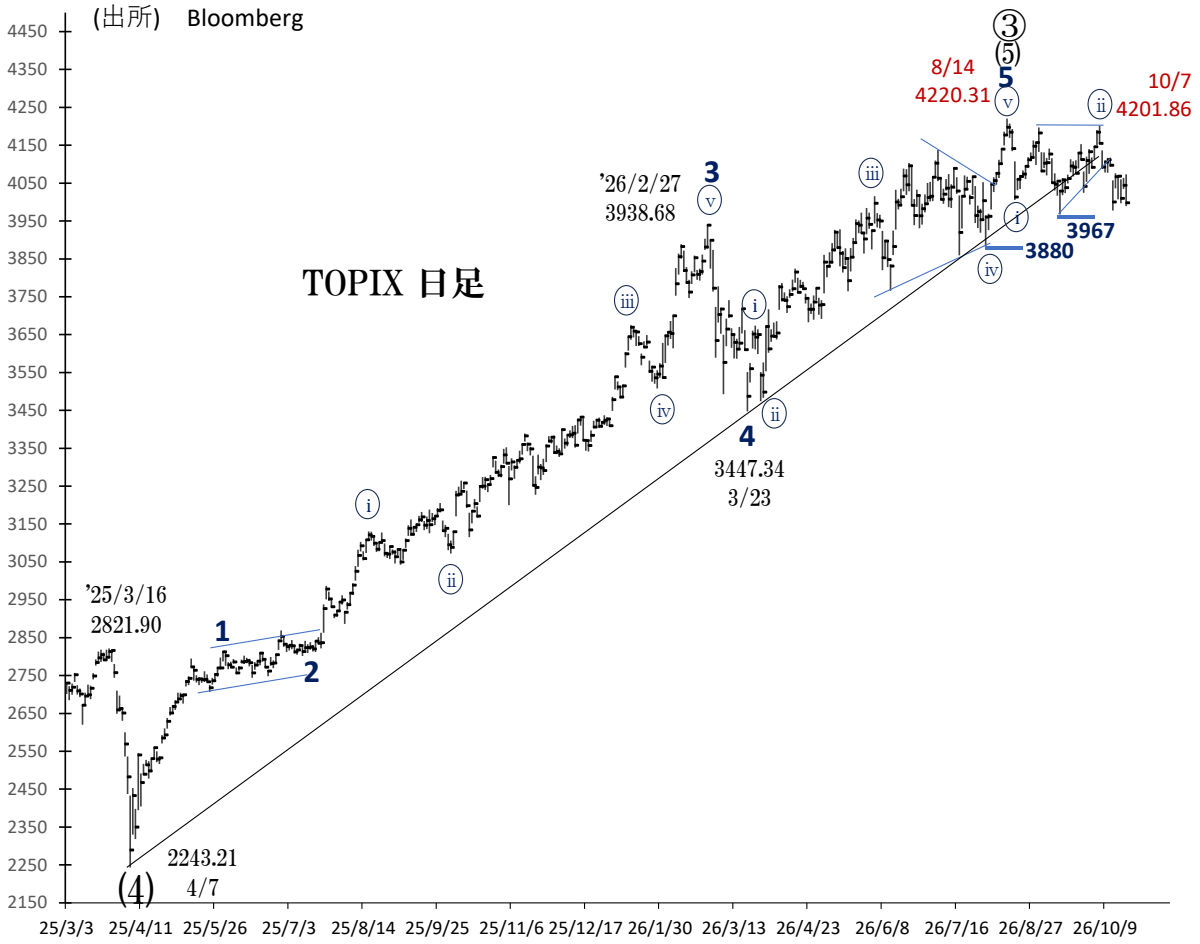
3 月末(50,558 円)からの週次サイクル(今週は 30 週目です)は、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きいでしょう(上昇期間よりも下げ期間が長くなります)。

現行サイクルでは、上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)の長さでした。サイクル全体が 37 週～53 週(※1)ということから、6 月 22 日(サイクルトップ)からの通算下げ期間は、24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。ここからすると、日経平均は今年 11 月下旬～来年 3 月まで軟調な展開が続くと予想されます。

なお「レフト・トランスレーション」において、サイクル終点の価格がサイクル始点の価格を(通常は)下回ります。現行週次サイクルは少なくとも 50,558 円を下回るまで続くでしょう(※2)。ちなみに年末値が 50339.48 円未満なら 4 年ぶり年間マイナスとなり、週次サイクル起点の水準にもほぼ合致します。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。
(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満であると仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[TOPIX]

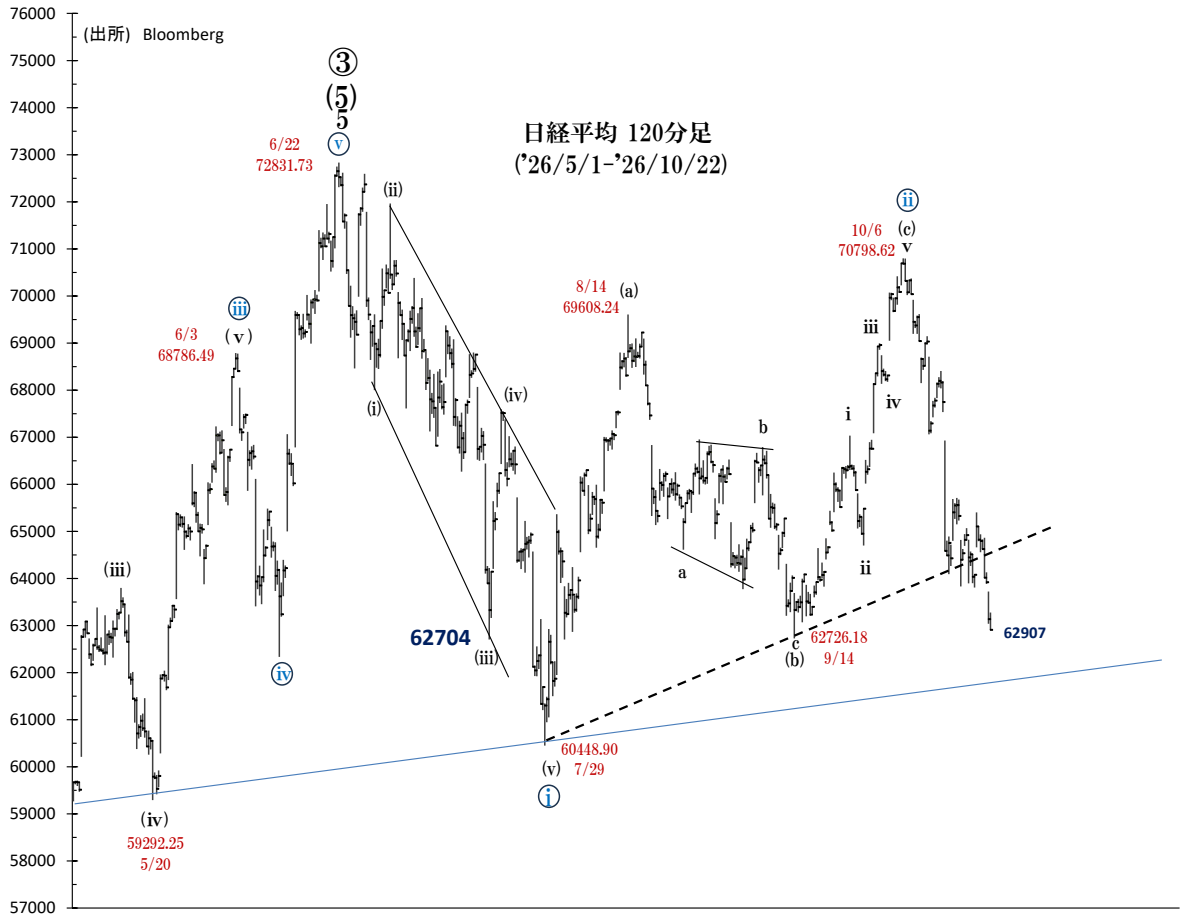
日経平均のプライマリー③波のピークは 6 月 22 日、TOPIX は 8 月 14 日に 4220 でピークを付けました（未確認による天井打ち）。以来、プライマリー④波に入っており、それはまだ序盤に過ぎません。

先々プライマリー④波の調整規模は、プライマリー第②波(2018 年 1 月～20 年 3 月)の下げ率（37.2%）と同等か、それ以上の大きさになると思われます。

足元の水準は、25 年 4 月安値からのサポートラインを下回って推移しています。
3967 を割れると、8 月と 10 月高値による「ダブル・トップ」完成が確認され、短期的にも 3880 を試す展開がありそうです。

後述するように、足元の信用需給が大きく悪化しています。当分の間、追証発生に伴う売りが指数（なかんずく日経平均を）を大きく押し下げる可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[日経平均・120 分足]

70,798 円(10/6 高値)から、マル iii 波による下げトレンドが進行中とみています。
22 日は 1713 円安の安値引け(62,907 円)となり、終値は 7 月 30 日以来の安値でした。7 月安値(60,448 円)からのサポートライン(破線)を明確に下回り、下落モメンタムが再度強まっています。
目先的にも 62,726 円(9/14 安値)を割り込み、200 日 MA(61,403 円、10/22 終値時点)を試すでしょう。
マル iii 波では強い下げが想定されることから、200 日 MA や 60,448 円(7/29 安値)などの節目を早々に割り込む可能性もあります。

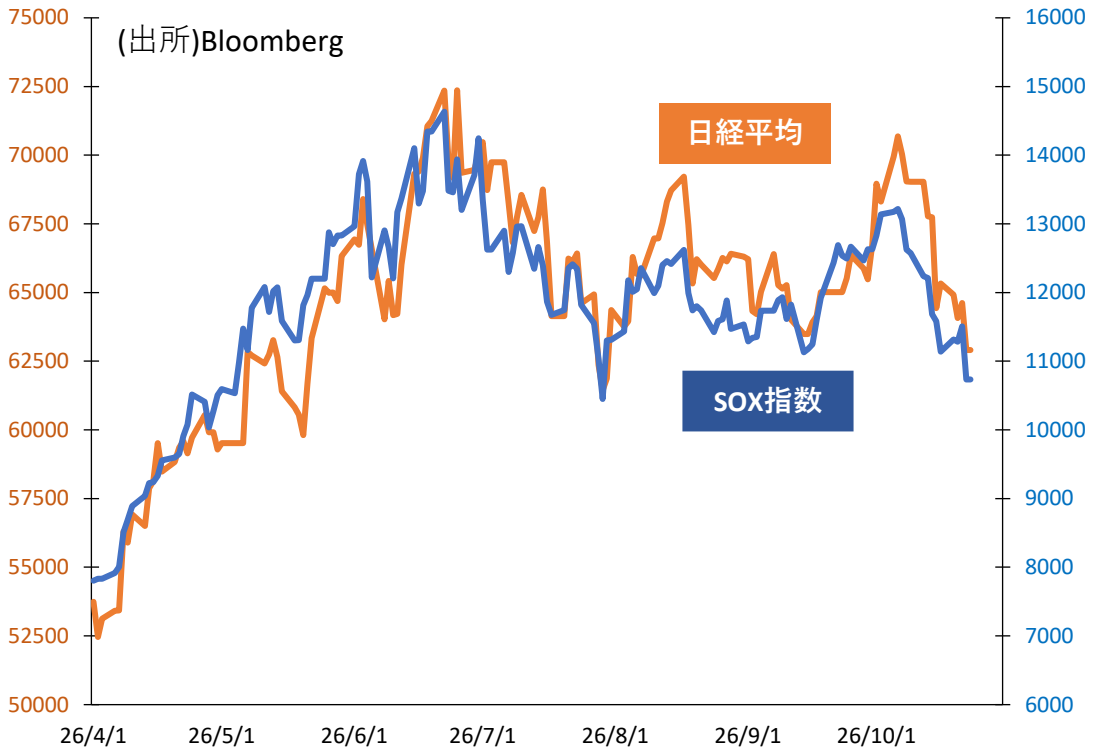
マル iii 波の下げ幅は、控えめにみてマル i 波と同じスケール(1 万 2382 円幅)が想定されます。この際の下値目標として[58,415 円]が導かれます。

通常はマル i 波の長さに対し 1.618 倍がマル iii 波の長さであり、ノーマルな目標値は[50,763 円]です。
前述のように、現行週次サイクル完成時期(11 月～来年 3 月) に、日経平均は 50,558 円を下回ると予想されることから、今後は週次サイクルとマル iii 波が、同時に終了する可能性があります。

日経平均と SOX 指数

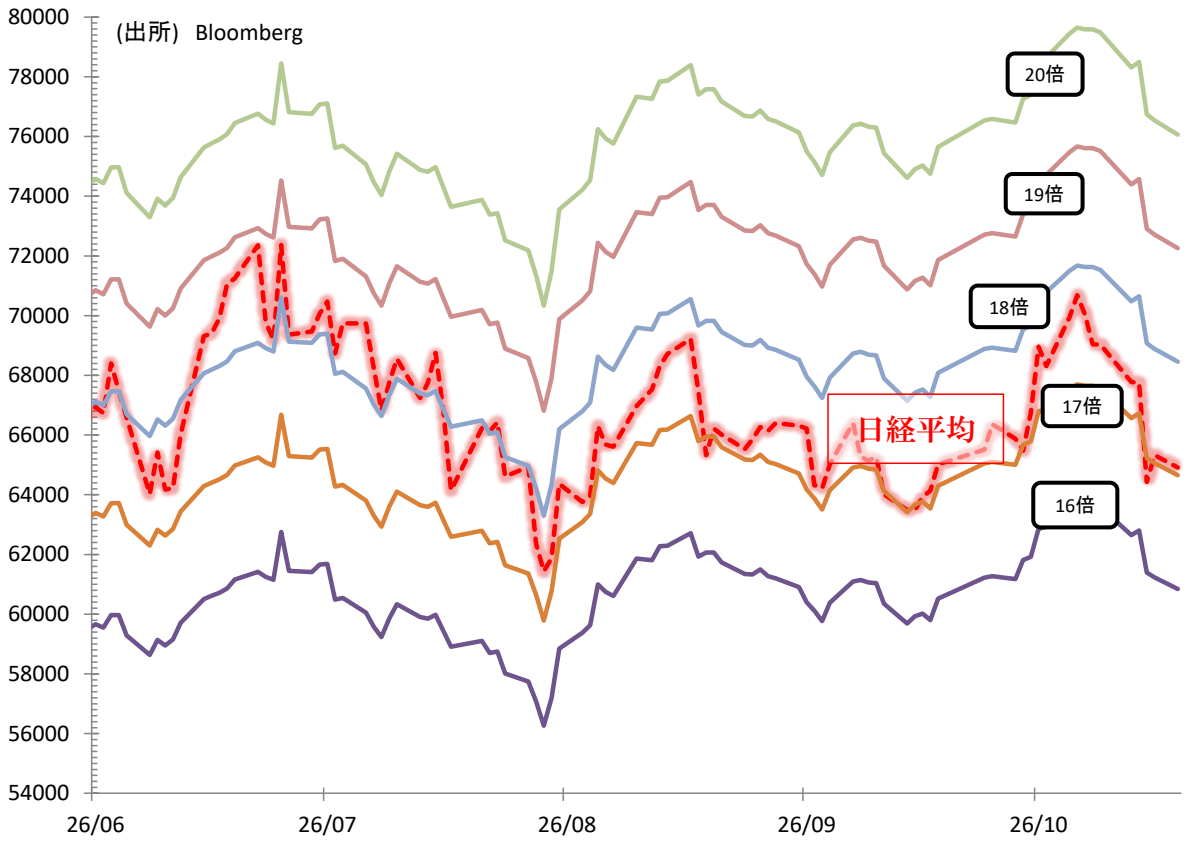
日経平均と SOX 指数は互いにシンクロしています。近々、7 月安値を下回る展開に発展していくと思われます。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[予想 PER 別の日経平均水準]

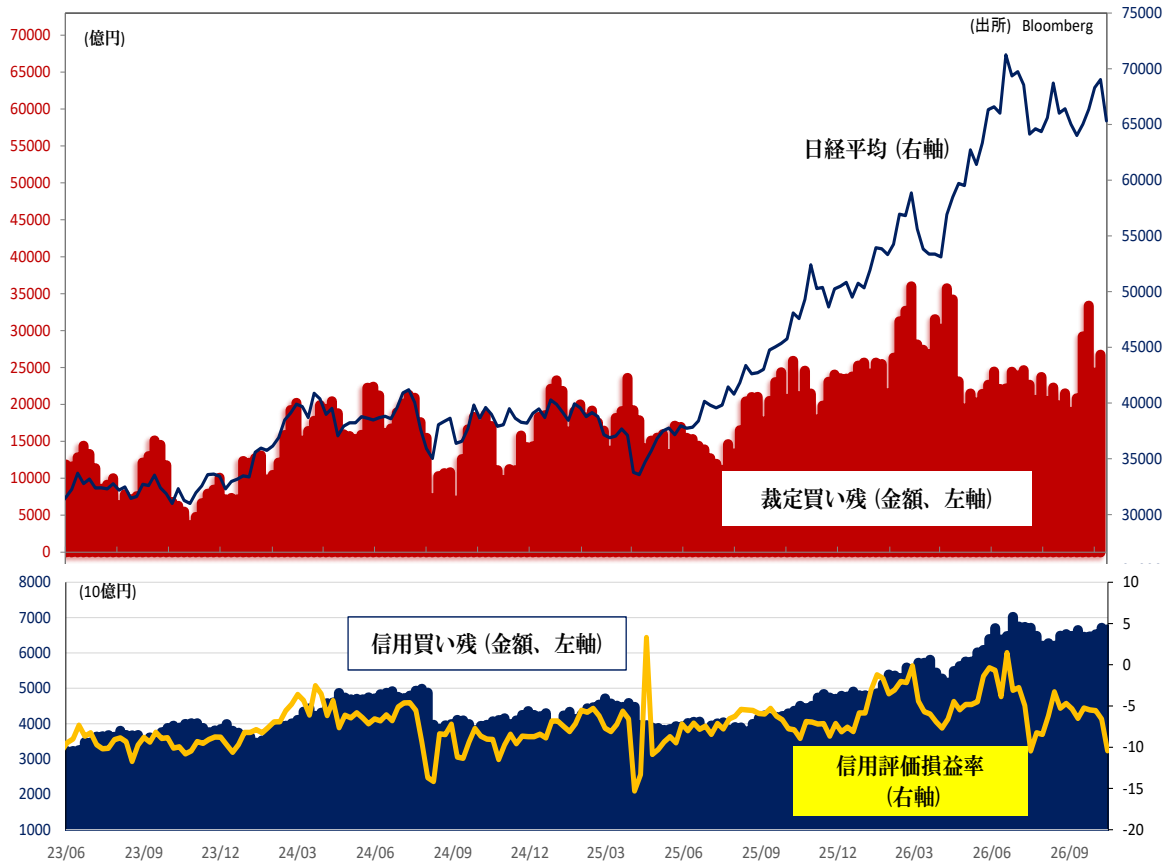
10 月 22 日の日経平均予想 PER は 16.78 倍、予想 EPS は 3748 円。過去最高は 3982 円(10/6)です。



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[裁定買い残と信用買い残]（10 月 16 日時点）

信用倍率（金額ベース）は 3 週続けて上昇。10 月 16 日申し込み時点では 9.99 倍と、データ遡及可能な 2005 年以降では最高水準を記録しました。



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

NY ダウ・S&P500

【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、4 月下旬からの「メガホントップ」天井パターンからの下放れが続いています。
最初の下降波(マル i 波)は 50546 ドル(10/1 安値)で完成し、そこからマル ii 波のリバウンドとカウントできます。

マル ii 波のメドは、マル i 波の 50%-61.8%戻り[52,645 ドル-53,140 ドル]が適当です。
22 日には一時 52,927 ドルまで上昇しましたが、これは想定レンジ内で付けています。マル ii 波はいつ完了してもおかしくないでしょう。

マル ii 波のリバウンド完成後には、マル iii 波下落が続くことが想定されます。
200 日 MA(現在 50,516 ドル)を終値でブレイクすると、3 月からの上昇の半値押し[49,900 ドル]、3 月からの上昇に対する 61.8%押し[48,757 ドル]などを目指すでしょう。

もっとも第(iii)波自体には、より大きな弱気の可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

【S&P500 日足 エリオット波動分析】

10 月 6 日の高値(7844)を以て、25 年 4 月安値以来の第(5)波完成が完成した可能性があります。この見方は、SOX 指数の潜在的な弱さによって裏付けられているようです。

6 月安値以降の上昇は非常にチョッピーな波形となっています。これは天井パターンの「エンディング・ダイアゴナル」とみられます。この見方によると、遠からず 7237(6 月安値、ダイアゴナル始点)に向け、急落がスタートするでしょう。

目先的に 7616 を割ると「ミニ・ﾍｯﾄﾞ・ｱﾝﾄﾞ・ｼｮﾙﾀﾞｰｽ」のネックライン(破線)がブレイクされ、7507(9/16 安値)を試すことでしょう。7507 割れによって「ダイアゴナル」からの下放れが確認されます。

一方、7507 を維持する限りにおいて、上昇第(v)波の可能性は残されています。このケースではあと 1 回の高値更新を以て天井を付けるでしょう。

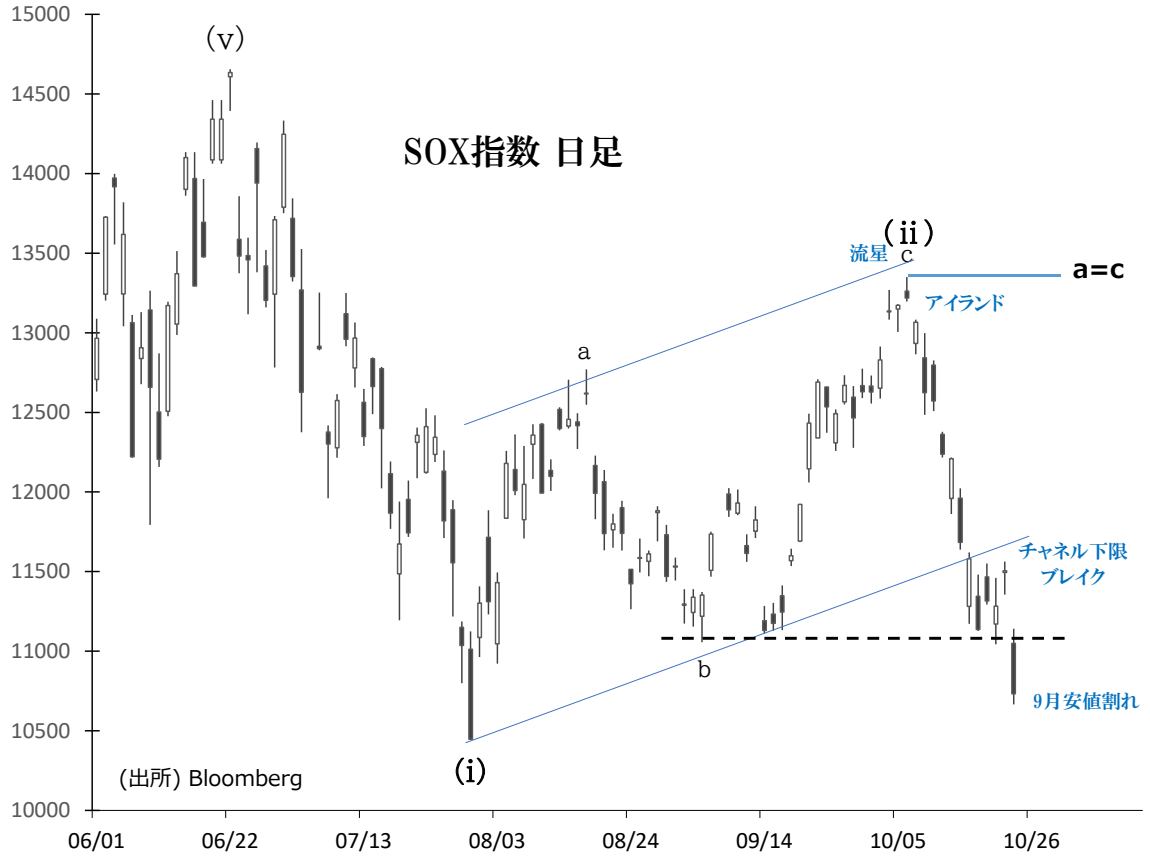
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

SOX 指数

10 月 6 日高値(13,349)から下降第(iii)波が展開されています。22 日には一時 10,666 と、およそ 3 カ月ぶり安値となりました。今月は 6 日高値から、この日の安値まで早くも 20%下げたことになります。

目先的には 7 月安値(10,445)が意識されやすく、一時的なリバウンドがあってもおかしくないでしょう。

もっとも第(iii)波は、少なくとも第(i)波の同じ下げ幅(4209 ポイント)になることが想定されます。
これによると、最初に想定される目標値は[9140]です。



Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

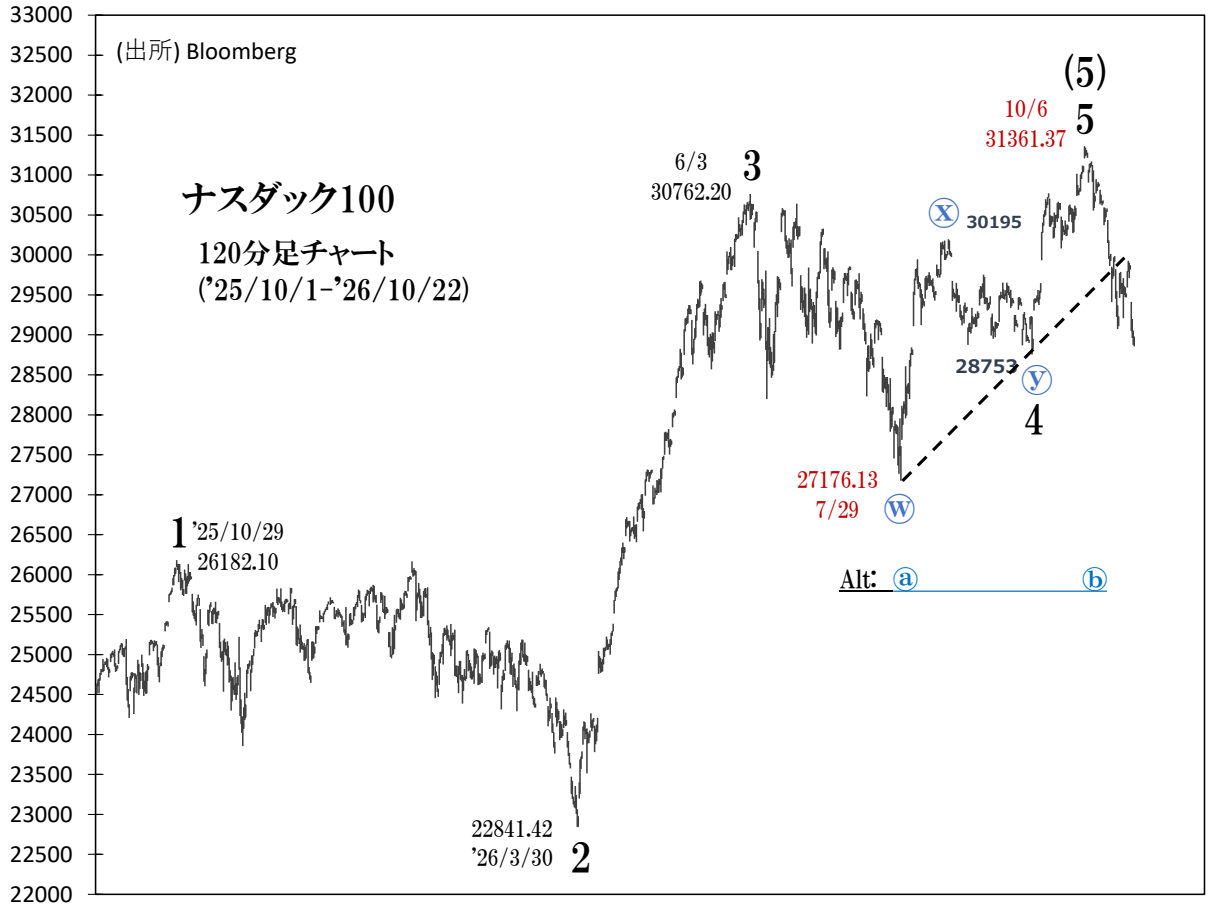
10 月 22 日は急落し(▼3.4%)、注目していた 9 月 29 日安値を明確に下回りました。ヘッド・アンド・ショルダーズ完成から、ネックライン(破線)下放れスタートの可能性が高いでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[ダウ輸送株平均]

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

28,753(9/16 安値)からの上昇マイナー5 波は、31,361(10/6 高値)で完了したとみられます。

10 月 22 日は一時 28,855 まで下げ、9 月 16 日以来 1 カ月ぶり安値となりました。
9 月 16 日安値は 28,753 ですが、それを目先的にもブレイクする可能性があります。そうなれば、下落ピッチは一層速まり、早々に 27,176(7/29 安値)を試す展開となるでしょう。

(オルタナティブカウント、Alt)

インターミディエイト第(5)波におけるマイナー第 4 波が「フラット」で展開しており、27,176(7/29 安値)からの上昇マル b 波は 31,361(10/6 高値)で完成しました。そこからのマル c 波は 27,176 を早々に試すとみられますが、26,182 を割ることはありません。

ただし 26,182 を一時的にも下回れば、今がマイナー第 4 波という見方は却下され、本格的なベアマーケット入りを確認します。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円

【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1 ドル=145 円程度です。
さらに、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1 ドル=97 円～103 円です。
短期的にも長期的にも、日本円の過小評価が続いています。

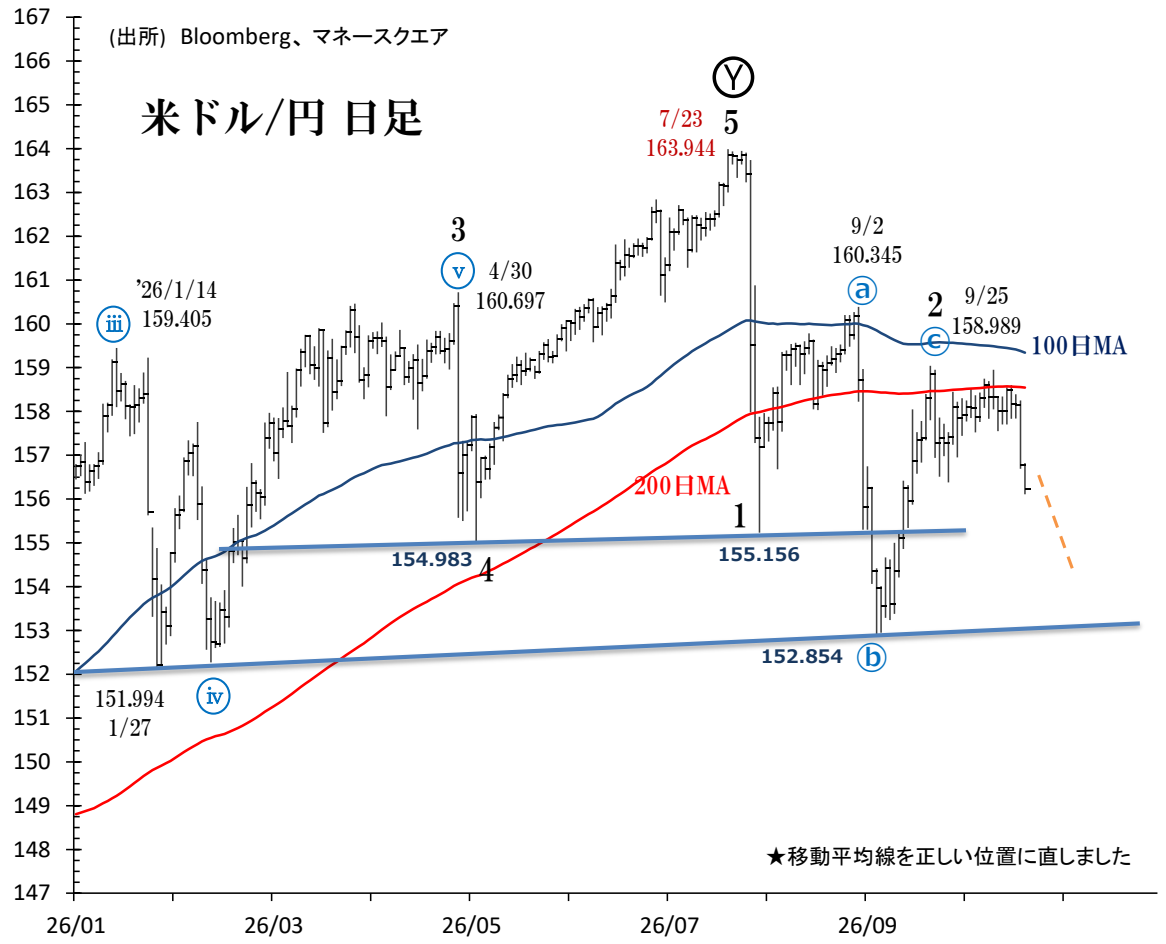
163.944 円(7/23)を以て通算 5 年間の円安Ⓨ波[ウェッジ]は完了した、とみられます。ウェッジ内の副次波は、次のように相互に美しい比率を示しています。
(C)波の長さ÷(A)波の長さ=0.703、(E)波の長さ÷(C)波の長さ＝0.703

この先は数年間にわたる円高になるでしょう。上記のように、長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

7 月末の日米協調円買い介入は、円安の限界水準(160 円台前半)を明示しており、もはや積極的な円売りの動機は失われたといえます。今後は次第に円高傾向が強まっていくでしょう。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1 ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足 エリオット波動分析】

158.989 円(9/25)から、第 3 波(ドル安・円高)に入った可能性があります。

22 日より俄かに円高が強まっています。22 日夕方に、複数メディアによる「10 月決定会合(29 日-30 日)で、連続利上げを見送り」とリークがありましたが、それに逆行するかのような円高です。これは世界的な株安を受け、円買い要因が従来の金利要因からリスクオフへと、転じた可能性を示唆しています。

第 3 波は、「複合型ヘッド・アンド・ショルダーズ」のネックライン＝152 円処をまずは試すでしょう。

152 円処は、25 年 4 月(139.577 円)からのドル/円上昇の半値戻り[151.910 円]に相当する上、今年 1 月 27 日の安値 151.994 円でもあります。

心理的節目の 150 円も視野に入り、その直下には 61.8%戻り水準[149.070 円]が控えています。

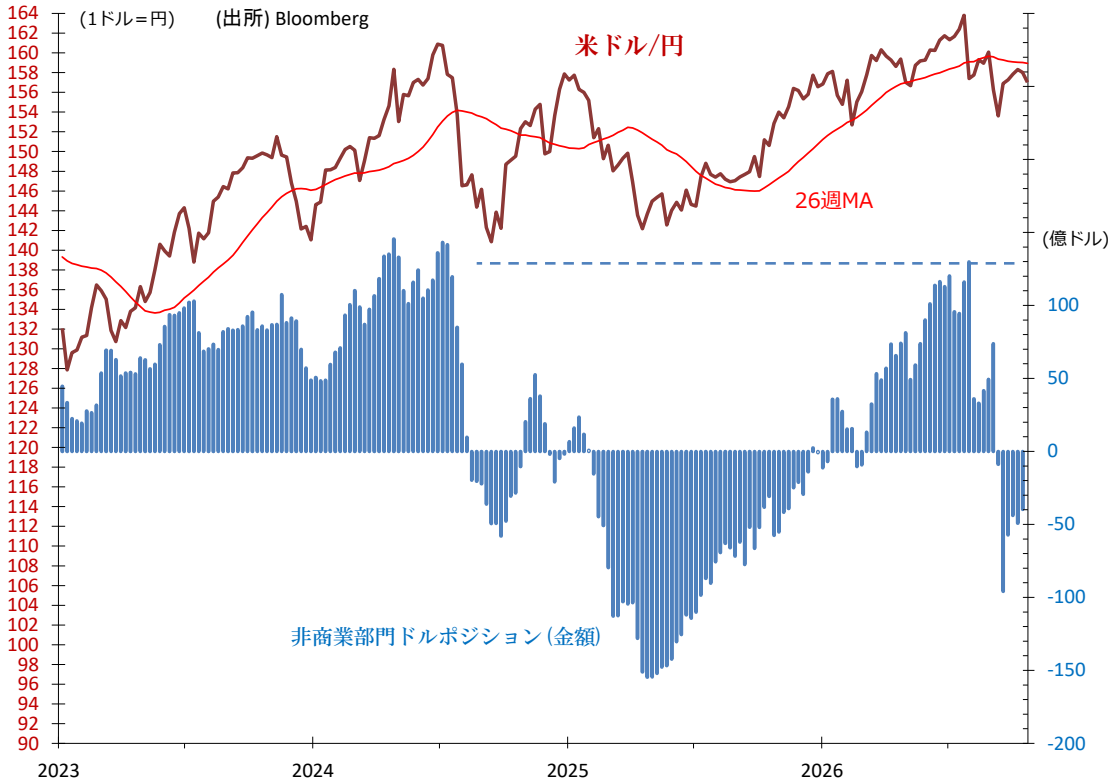
なお複合パターンに基づくターゲットは、①145 円-146 円、②141 円です。

※以前の日足チャートで、移動平均線の位置がずれていました。この場を借りお詫びします。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.055 円]です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



円買い持ち高がやや拡大（2026 年 10 月 13 日時点）

IMM 通貨先物市場で投機筋（非商業部門）による円買い持ち高は、前週の 49.21 億ドルから 39.71 億ドルへ縮小しました。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ドルインデックス（ドル指数）

【エリオット波動分析】

今年 1 月からのドル高・(X)波は A-B-C 編成ですが、そのうち B 波「フラット」は 98.557(8/21)で完了し、以降のドル高は C 波に位置付けられます。

10 月 14 日高値(102.945) は(Y)波(25 年 1 月～26 年 1 月)の半値戻り[102.864]に一致しています。それに加え、200 週 MA も強いレジスタンスとして機能しているようです。なお 200 週 MA は低下し続けており、長期のドル安トレンドを示唆しています。

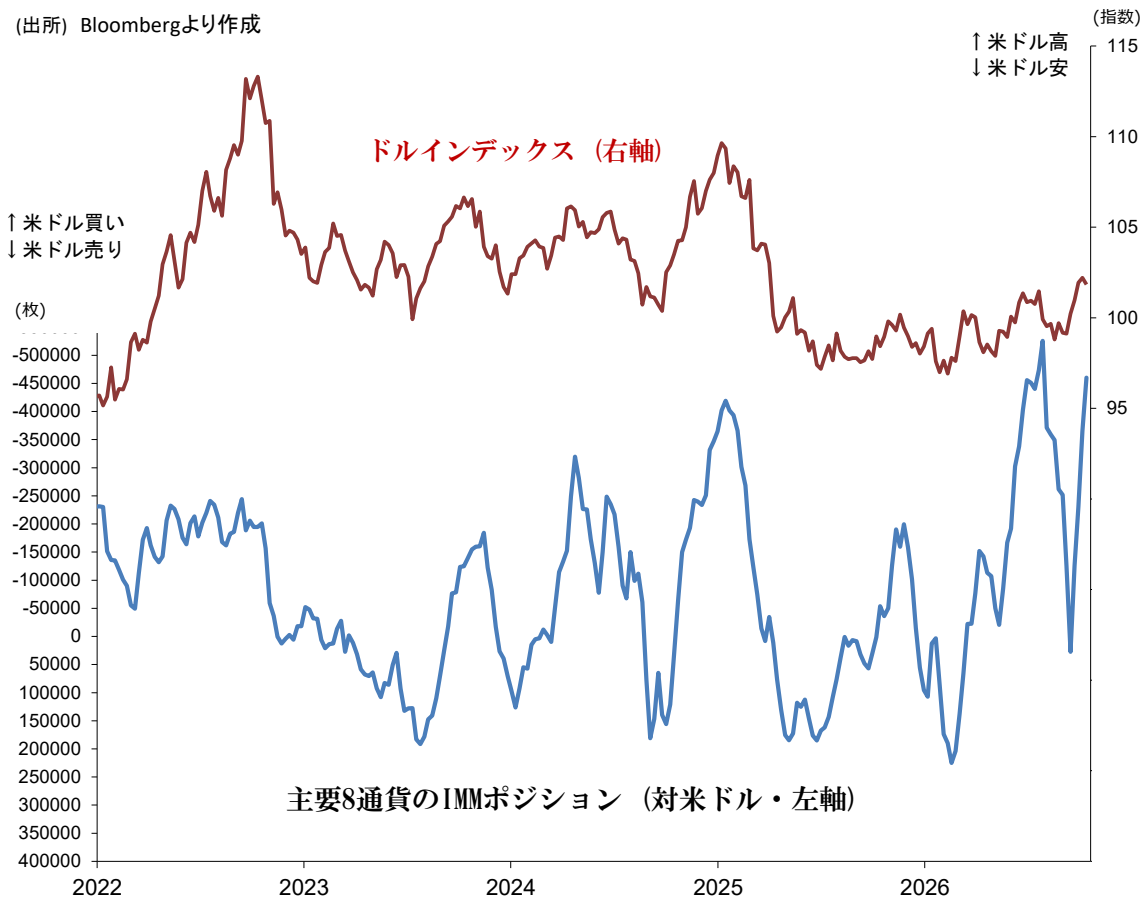
需給面においても、投機筋によるドル買い持ち高は再び歴史的高水準に拡大しています。この点からも、C 波及び(X)波はいつ終わってもおかしくなく、そうであれば、ドル安トレンドの再開が近いと思われます。

一方、ドル高基調がまだ続くなら、[103.654](A 波と C 波が等しく上がる水準)が節目となります。

投機筋のドル合成ポジション買い持ちが歴代 2 位に拡大(2026 年 10 月 13 日時点)

投機筋によるドル合成ポジションのドルの買い持ちが、前週 36 万 5754 枚から 46 万 231 枚に増加。買い持ち枚数は、過去最大の 52 万 5549 枚(7 月 28 日時点)に次ぐ、歴代 2 位の高水準に膨らみました。特にユーロの売り持ちは 13 万 7573 枚に増加し、2016 年 1 月 19 日時点(13 万 7015 枚)以来 10 年 9 カ月ぶり高水準になりました。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.